

# 患者を多角的に検査する 臨床検査技師という技術者



川崎医科大学附属病院  
中央検査部 技師長 河□勝憲

中四国で唯一の「毒劇物解析室」を院内に設置。救急にも対応。

河口勝憲氏は、三十六年のキャリアを誇る臨床検査技師。その歩みは川崎医科大学附属病院ひと筋で、現在は七五人の臨床検査技師が所属する中央検査部の技師長を務めている。

「臨床検査技師の仕事は、大きく分けて二種類あります。ひとつは、患者さんの血液や尿、髄液などの成分分析や細菌やウイルス検査により病気の原因を探り出したり、組織片などを取り出して細胞の標本作りを行なう検体検査。もうひとつは、脳波検査や心電図検査、超音波検査など、直接患者さんの身体の表面や内部の器官からデータを探る生理学的検査（生理検査）です」。

医療現場では、臨床検査技師が行なった検査結果をもとに、医師によって病気の診断やその後の治療計画が立案されている。臨床検査技師が提供するデータが患者さんの診断・治療の指針となるため、臨床検査技師の存在は、医療チーム内でも大きく、重要な役割を担っている。

一九九八年毒物混入カレー事件後、厚生労働省により、高度な化学物質分析装置が全国八か所の高度救命救急センターに配備された。当院もその一つで、中四国で唯一の「毒劇物解析室」を設置している。当室では臨床検査技師が薬毒物の精密検査を行なっており、農業や薬物中毒など、救急医療にも二四時間対応している。



## 医療現場を支えるスペシャリスト 医療最前線 >>> vol.50

### 川崎医科大学附属病院 臨床検査技師

#### 現代医療を支える臨床検査の スペシャリストたち

中央検査部は迅速さと正確さ、そして信頼をモットーとして、血液や尿など検体の分析、微生物検査、心電図・超音波・脳波などの生理学的検査に至るまで幅広い検査を担当し、365日、24時間体制で医療を支えています。



中央検査部部長  
川崎医科大学検査診断学(病態解析)教授  
通山 薫



検査システムを使い迅速な検査・結果報告を実施。微生物検査データを活用し、院内感染対策にも貢献している。



検査機器を使った病院実習の様子。

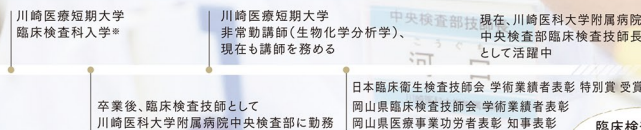
当院の多様な医療を支える中央検査部のスタッフたち。川崎医療短期大学\*の実習生の姿も見えます。

検体は患者さんそのもの。その思いを若手に引き継ぐ。

#### Medical technologist 臨床検査技師とは

医療現場において、患者の血液や尿、脳液などにより、さまざまな検査を担当する技術者。検査は大きく「検体検査」と「生理学的検査」の2つに分けられる。近年、臨床検査技師は病院やクリニック、検査センターの検査室だけでなく、医療機器や医薬品メーカーなど幅広い領域で活躍しており、チーム医療を支える専門職としてそのニーズはさらに高まっている。

#### 臨床検査技師になるために～河口さんが歩んだ道～



臨床検査技師に求められる  
素質とスキル

#### チーム医療の一員として患者を多角的に検査する医療技術者

- ☑ 正確で精度の高い検査データを提供するための技術力やデータから患者さんの病態を読み解く専門知識
- ☑ 日々進歩する医療に対応し、スキルアップし続ける向上心
- ☑ チーム医療の現場で柔軟に対応できるコミュニケーション能力

※ 川崎医療短期大学臨床検査科は、2017年4月より川崎医療福祉大学臨床検査学科(4年制)として新設。

お問合せ  
川崎医科大学附属病院  
倉敷市松島577  
☎086-462-1111  
http://www.kawasaki-u.ac.jp/hospital/